

鄱林泉名勝圖會
四



都林泉名勝圖會卷之四

目錄

平園八幡宮
高神護寺
納涼房
三日阪
練若卷
羅坡房
定心石
秋茶目録
足利十二世本像

竹林寺
三鐘
猿窟
榎尾平等心院
石水院
三加禪
茶古蹟深瀬三本木
等持院
衣笠山

梅相導故菴
地藏院
秋暮紅葉風色
榎尾高山寺
花宮殿
禪河院
三尊院丹楓
芙蓉池
衣笠殿



此一冊圖會

夜笠淨靈
 紫雲
 二笑橋
 西源院林泉
 綾杉
 花園社
 妙心寺
 法堂
 四孤松
 古鏡
 什寶
 玉鳳院
 微笑菴
 龍安寺
 三島
 方丈林泉虎子佛
 東泉院
 真田幸村塔
 花園山亭
 山門
 天井蟠龍
 雪江松
 十景
 美金鏡
 花園法皇宸影
 陶山圖師像
 鏡容池
 水引石
 八景
 大珠院
 同家附寶器
 頓阿法師古蹟
 佛殿
 毘盧藏
 鏡銘
 方丈畫
 矢根寶劍
 拈華室
 祥雲院殿魂舎

織田家塔
 天授院
 古鏡
 授翁真景
 記文
 如是院
 東海菴
 大通院
 海福院
 麟祥院
 芋喰僧都舊蹟
 南浦畧傳
 一休詩
 武田家塔
 什寶
 古鏡
 藤房卿髮塚
 退藏院
 衡梅院
 靈雲院
 蟠桃院
 柱基院
 春浦院
 大應國師塔
 虛堂贊
 後宇多院塔
 龍馬鞍上
 寶塔
 經文切
 碑石
 善源院
 龍泉菴
 聖澤院
 雜弄院
 太嶺院
 大光院
 安井長龍翔寺古蹟
 大應頌
 賀陽門院塔

高雄
看丹楓

滿眼秋光画不同
風霜昨夜染山楓
已如霞彩凝林表
又似暎暎掛樹中
鳥怯投棲疑火煉
蝶飛不去訝花紅
賞遊盡日耽詩句
揮筆還羞錦繡工

橋山畑柳啟



林四貳

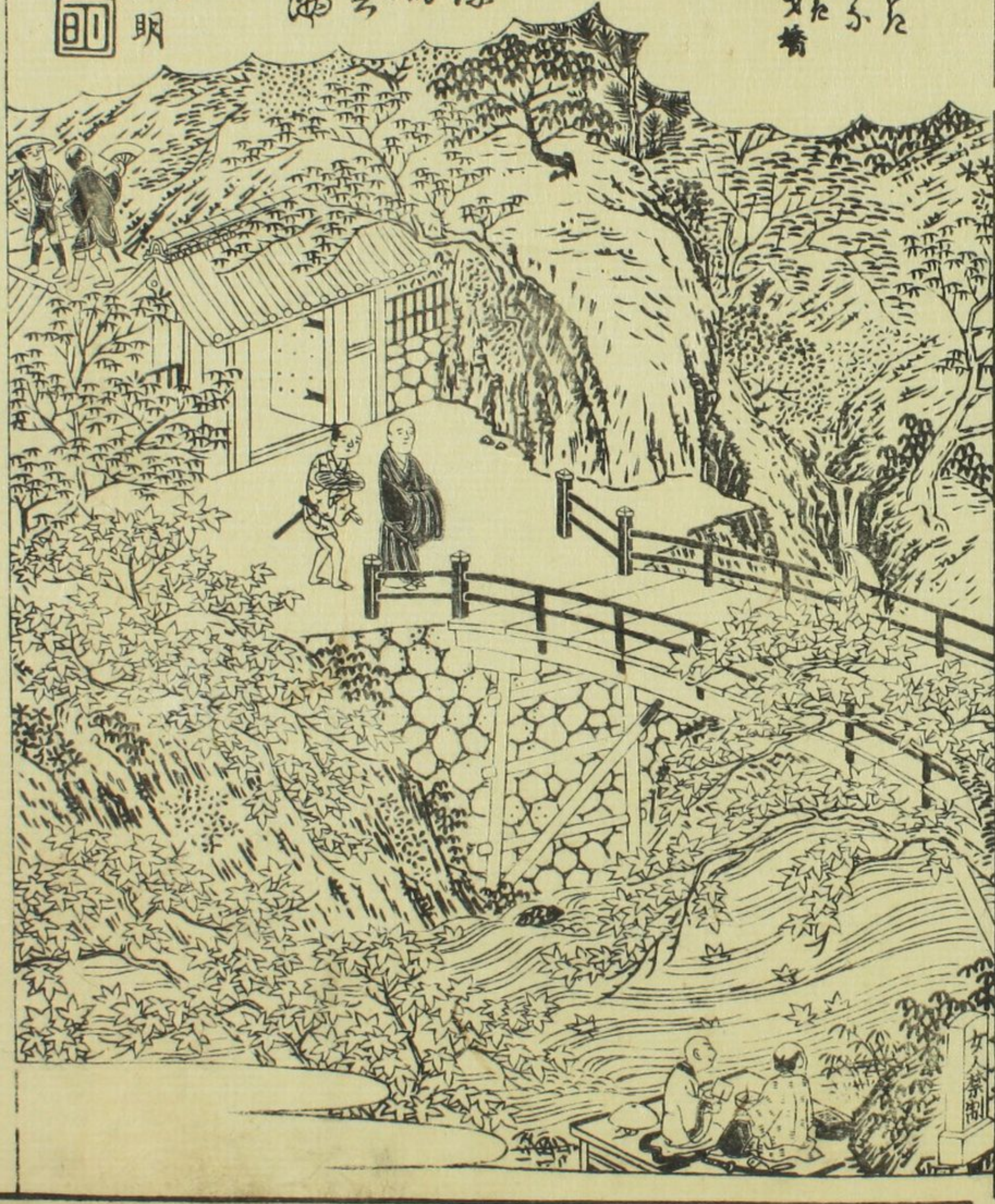
文鳴

谷の流

いよ／＼と
おそくか
流長
文鳴

高雄
王爺浮
鄉景勝
無字雲
嶠北擁
目紅楓

相扇
維明



維明

相扇



霞抹青溪落照深
 紅楓玉淵夾千林
 尋秋何處宜回瞰
 寺在煙雲縹渺岑

百々聲

高雄山

かみちふ
 とおろしの

法隆河の

庭さそてふ

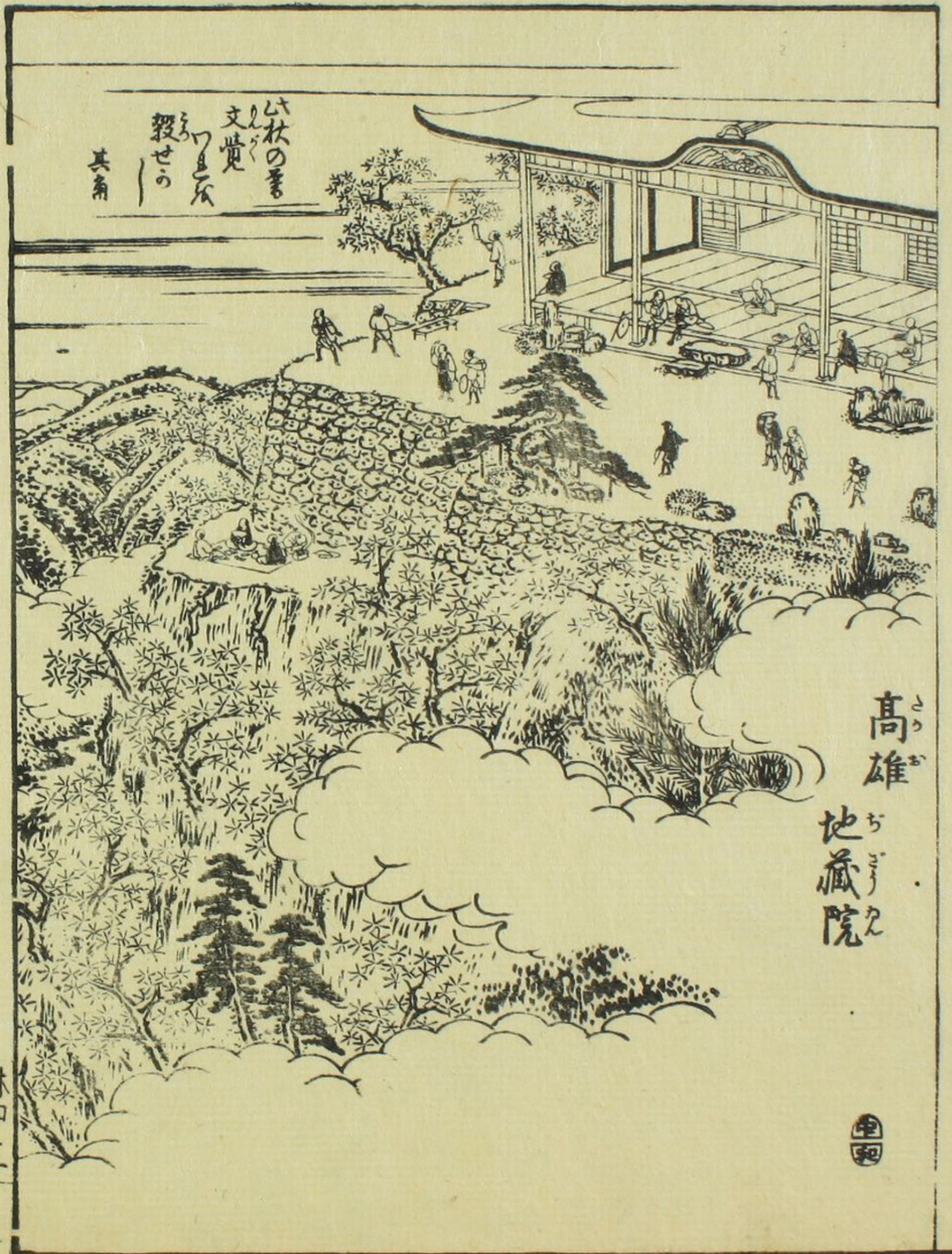
橋本輝亮

高雄山

松ふらゆはと

日くま

暁彦



い杖の香
 文覚
 穀せの
 其角

高雄
 地藏院

全

林田三

高雄山神護寺の林泉は洛北の妙境化邦小比類さし寺系小法龍
 川は遠く流く飛鶴谷に下す川谷をゆるり楓林あり多
 深杖の頂は紅錦と曝とぶくくの面をぞも紅と彩も似しりけは
 伽藍五堂をまむ一山丹楓をまむぬ所あり道の側弘法大師の額
 書石のありこれあり金剛定寺の額と大師小書りありと
 帝より勅ありと勅使来りありおかしきを思ふと夕立頻ふ落れを
 法龍川の水塔を橋も危うく見たり弘法大師あり召て筆小墨を
 會せし石上より額に向て書り墨の旁のぬく飛んで額の面に落
 ちる人々怪をよみ金剛定寺の四文字現と勅使意悦して瑞るありと
 あり今も額立石も惣門の東あり梓當山は和氣法曆八幡宮の神勅
 と蒙りてありおかしき書り初に神願寺と号く(淳和帝の
 御宇)長二年お當山弘法大師賜へて改く神護國祚真言寺
 と號く大師住山しる(承平六年)金胎支部密宗の宗風大に耀く

貴賊を度は什寶ふ大師の事迹の山水は原風あり(山水と宗儀
 密灌の時おと弘法大師の事迹の山水は原風あり(山水と宗儀
 又當山の鳥鐘は世々名高く本朝の名器ありと三絶の鐘を祿
 銘文の撰者ハ菅原是善卿序詞ハ橋廣相筆者ハ藤原敏行
 あり其銘云

高雄山神護寺鐘銘并序
 愛當之神護之寺三寶既備六度無虧唯
 所有梵鐘形小音窄故禪林寺少僧都真
 紹和尚始發弘願有心改鑄範範未成衣
 祇早化檀越少納言從五位上和氣朝臣
 昇範悼和尚之遺志尋先祖之旧蹤以貞
 觀十七年八月廿三日雇治工志我部海
 繼以銅一千五百斤令鑄成焉恐年代久
 遠後人不知仍聊記於鑄側
 右少辨橋朝臣廣相

傳音在器
 銘一首八韻
 證果惟因
 余祖初業

厥孫幸道 宿昔三尺 今日千斤
體有寬窄 功無舊新 山聲萬歲
谷響由旬 聞宜覺夢 扣即歸真
慈周世界 感及非人 雕琢懸趣
蒙叟當仁

參議正四位下勸解由長官兼式部大
輔播磨推守菅原朝臣是善銘
圖書頭五位下藤原朝臣敏行書

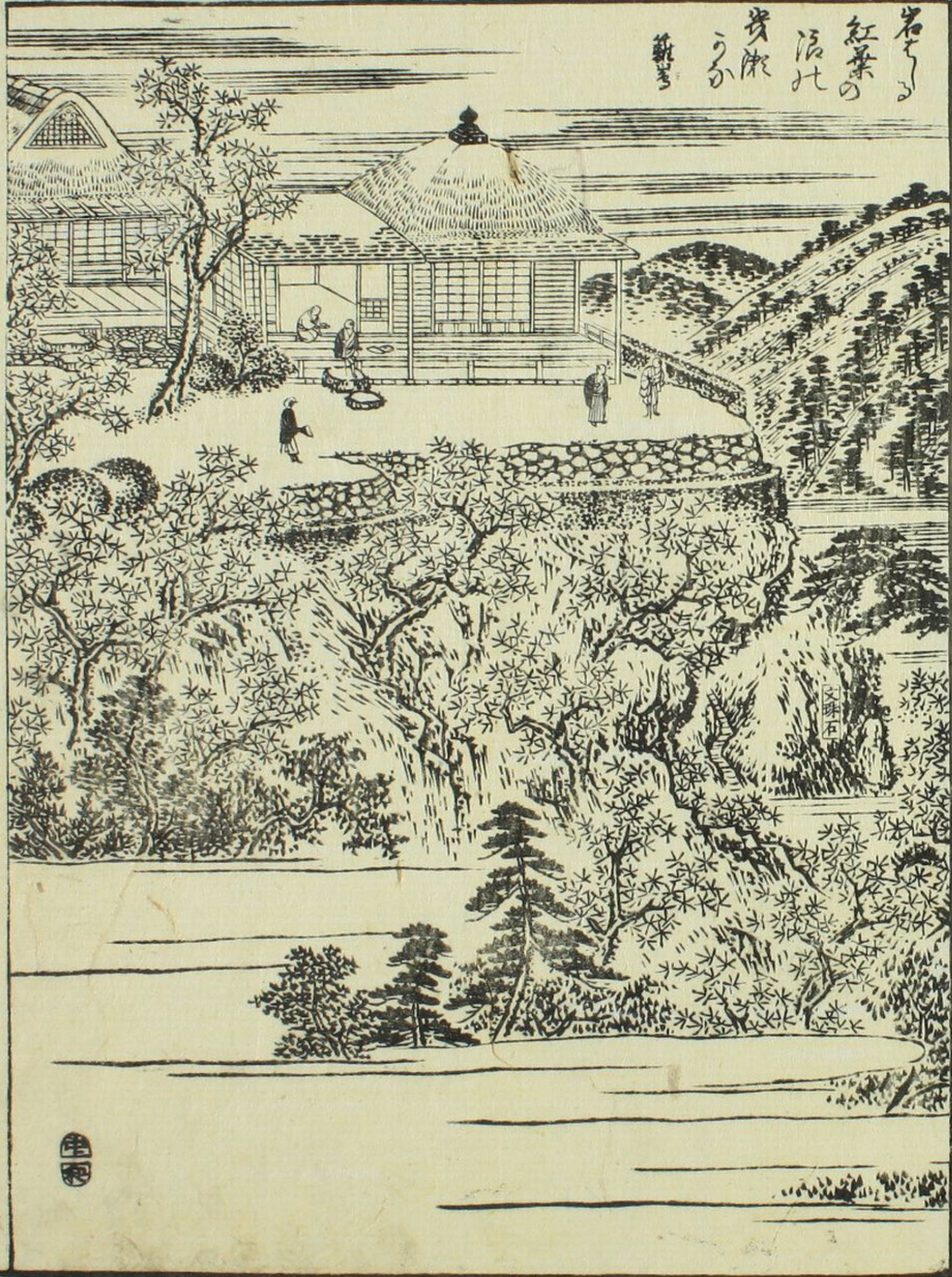
以後世板倉伊賀守の再興之其銘額書

當寺鐘樓再興從四位下行侍從兼伊賀
守源朝臣勝重爲驚三有之長眠而使一
切衆生證佛果菩提也

當山地藏院の林泉の客寮の座中より 溪間を際は清澗川瀑々
かぐしく尾流より谷崖を紅糸るぬ所をひ折る都下の驛客
あみ来つて遊宴せんとし事なき洛北の佳境の其一たり

真雄まことあわれ成るつとめさきといはと鼓の心
井い雄ゆう文ぶん覚かく上人じゆんじん哥か五ご首しゆ流りゆう系けい極ごく禪ぜん門もん汗あせ持もち本ほん告こ其その珠たま重ちゆう心しん

佛法練行心通和尙之由記縁記書載云又云文學上人の西引と
いふはなり其故の隨世の身とあはれ一筋小佛道修りの外不可他事
教をたててあやこまうをゆとありく糸ふくき法座をいつくそ
もいふいふ一程な事さうさう一考のあはれは是を考ると云
或時高尾法華會を西行まのてたの法をかがめありたる女子と云
是の處を上人みえとせし思ひは法華會をもて坊ゆりたる小
物ゆりんと云ふあり上人とてこたれらるる西引と考へし法花
結縁のたえみえといふ今日自之れ一教は佛窟室みいんやとて未てい
とひひをえ上人うちみえとてを引くありいはる葉叶ひ来る神
母くあり藤子とあけくまわたり志げはりりてまは入新とて入と
對面とて年頃系及ら見泰入なはける佛窟院公よりかや福ん
はみ物ころころと非時かや響を應とて次の朝之跡かことと光と
はゆりり才子を子なふ春なつらみ春宿みゆめる春悦思ひく上人と



くした杖も火もともさざりて一室を照らすとて其子ももたさく
の所小の支取く流る中いそれをもばへはなれふさうさうとあるか見て
けみあわくは志少くのみあやむ直ひたるぬきさうり一草あり
あつた葉も光るをなをびく心ちのあぐ今程は心のもむりのことさ
させの月見もさうとて房とせき清澗川のそとにわたり廿余町をさ
らぬりあへく大なる石有せぬのなりといひいふもあつた石に
伽藍をかやのさうとて礎ありやあつた石かどやうなる川にたつ
とくぬきあつたさうとてあつた石を備へての物語しつて坐せしむるを
そくあつたさうとてその石上もあつたさうとてあつたさうとてあつた
一牧とあつたさうとてあつたさうとてあつたさうとてあつたさうとて
彼石を定心石と名付けられたる所の悟真寺の石も模せ
られたるさうとて又繩床樹といふ松有その松屋禪もあつたさうと
正月の頃松のりやも居く観念せられたるふあつたのさうとて

形物

岩のうへ松のまかけふとみ保の神ありれやかけ一その玉 高桑上人

い外明上人釈教の靈跡派おもんく弟子十余人を相異して天竺へつり
ゆらんといわれたる南都春日大社神ありて海にさんとてかの津登り海へ
あつたさうとて麻六十段藤とありて地ふさうとてさうとてあつたさうとて
つりあつたに畧れ

梅尾茶藍觔 深瀬之本木 梅尾高橋の山の方古縁あり相傳ひつり

茶實と二粒次將末一漢の小樹といふ茶器も勝くあつたさうとてあつた
茶の地字は深瀬之本木といふ所に植られた天下茶園は初とて其後
宇治里もさうとて一極なり

茶のこころやあ 思ふもさうとてぬ万みけきとけやこのかぶのまはれお州 ぬま上人

梅尾上人云 茶の上古より加朝あり挽茶節會とて内裏もたつて公事儀式と

り内務も茶上僧正入庵の時そと種と渡さる梅尾明恵上人といふは

明恵傳記云 建仁寺長老より茶を進せられたる醫師は是は高僧かふ茶を遣困

消食氣快かつしむる徳あり然るも茶朝いさうとてあつたさうとてあつた

其實と二粒植初られたる誠も眠と替へて氣が晴と徳のまは衆僧

みし服せし先られ哉

深瀬の園は高山寺の傍より東北の地より明恵初多茗實二粒
を植むし一地の因茲梅尾茶公深瀬之本茶と稱はけ箇今に
あり其茶実之粒入る宗西禪師より進せしれ茶入と漢小棟
やのふ當ふ才一の器あり又云城州菟道郡歸茗園は明恵上人
の園ありやあり其初は菟道郡五箇莊の内之梅尾ふいそ冷の地之
温陽の地を求先茶樹公後一植んく上人馬小騎く巡見一五箇
庄の内之和田五つの園地を得く梅尾より茶樹を分移し植む其
園は駒蹄穀といふ可也

梅との尾上は茶の木を植くゆき生一駒乃蹄影 高井上人

其園はむろ菟道殿の茶園之平治の乱は荒蕪とといふ其後茶
園は之世郡宇治里に極とあり上人茶公植初はひいゆ古来
より今小宇治より毎年新茶と上人の影茶一杖せらるると也

高山寺和東記深云 禁裏御所献茶梅尾諸房目錄 地蔵院を袋田中坊を袋
中之坊二袋 園伽井坊三袋 東坊三袋

大樹公献茶梅尾諸房目錄 地蔵院一袋 田中坊三袋 東坊三袋
寺奉行飯尾大和寺に十袋 中之坊二袋 入江坊一袋 已上十袋

高井上人書翰云 明恵上人初の名成辨其後高井と改らぬ
飯尾方迎將監に 式袋 以書翰入り高高山寺あり

鶴禪房授與御靴奉畏候又兼而仰候茶實未熟候之間
令熟候分聊進之候恐恐

古記云 高井上人御房 丈覺 高井

明恵上人茶西禪師よりく得申茶実と梅尾ふ植く其茶と初飛
しと時の 帝一献せらる岩上茶より茶味勝れと敷感有く都茗
と令之せんより岩上茶と鄙茗と云梅尾茶公本茗といひあせり

高山義就書翰云 就御内書之義卷數則日出度候は係連日初念之驗祝著候
猶初誘憑入候仍而茶到来云名物賞祝極候事々期

來信候恐

卯月十一日

義就判

田中坊
は田中坊の今の岩財院といふ縁高山の宝庫あり

龍巖集云 柵尾自古產佳茶而未知名其

山及下清拙和尚集中同夢總國師遊柵

尾之詩始識古呼為茶山其詩云

幾重峰轉又谿廻行到茶山睡眼開

佛殿東房小樓上夢總清拙記同來

西齊詩話云

壽上人曰東其國所產以梅山茶

見惠賦詩謝幸得梅山信初嘗日本茶

尺素往來云

柵尾者此間雖衰微之體候下不虛

諺不可忘思召候朝日并深瀬之走摘止

閑伽井逆淵外畑小島等云

遊覽往來云

茶深瀬小島天狗島一瀬外畑岩傳門不

見橋返鐘樓花禪河院云

異制庭訓云

吾朝茶之窟宅以柵尾為本也開山禪師

依習禪勤行之障睡魔為強敵為彼退治

降伏植茶而為精進幢傳賢首之大教窮

秘密之奧談故經云以因分可說但為利

益說之真詮為茶之末以果分不可說我

本無有言之秘宜為茶之本也邊土洛陽

之名山名所如雲如霧各誇其家之春雖

朝他山之景皆是為城州柵尾和州清滝

之末流也又云我朝之茗山者以柵尾

為第一也仁和寺醍醐宇治葉室般若寺

神尾寺是為補佐此外大和寶尾伊賀八

嶋伊勢河居駿河清見武藏河越茶皆是

天下所指言也

茶壺徒程言云

柵尾が主との中國一の法師多く鄙の茶をそと事かゝりて

寄合ふ本の茶はたてをみそふのりてりちおほくのりては

去庫の津もも着より兵庫と中川と二日柵尾もも着りて

谷の坊特小名蘭の坊加井の坊は後先と十竹半笑は壺より

入りしむせおつて困とさく下は下界

近年寶曆中柵尾茗園記抄と金龍道人著はさく公畧とくまに出入り



山登園
 道安
 十竹茶
 秋君
 長北
 鳳山
 春得秀水
 院法有去
 子嗣天還
 老翁冬亦衣
 寄那送海西
 遊文衣山神足
 孝之禪師示心
 近體一第乃極旨份
 衣堂崎倫桂洲為林

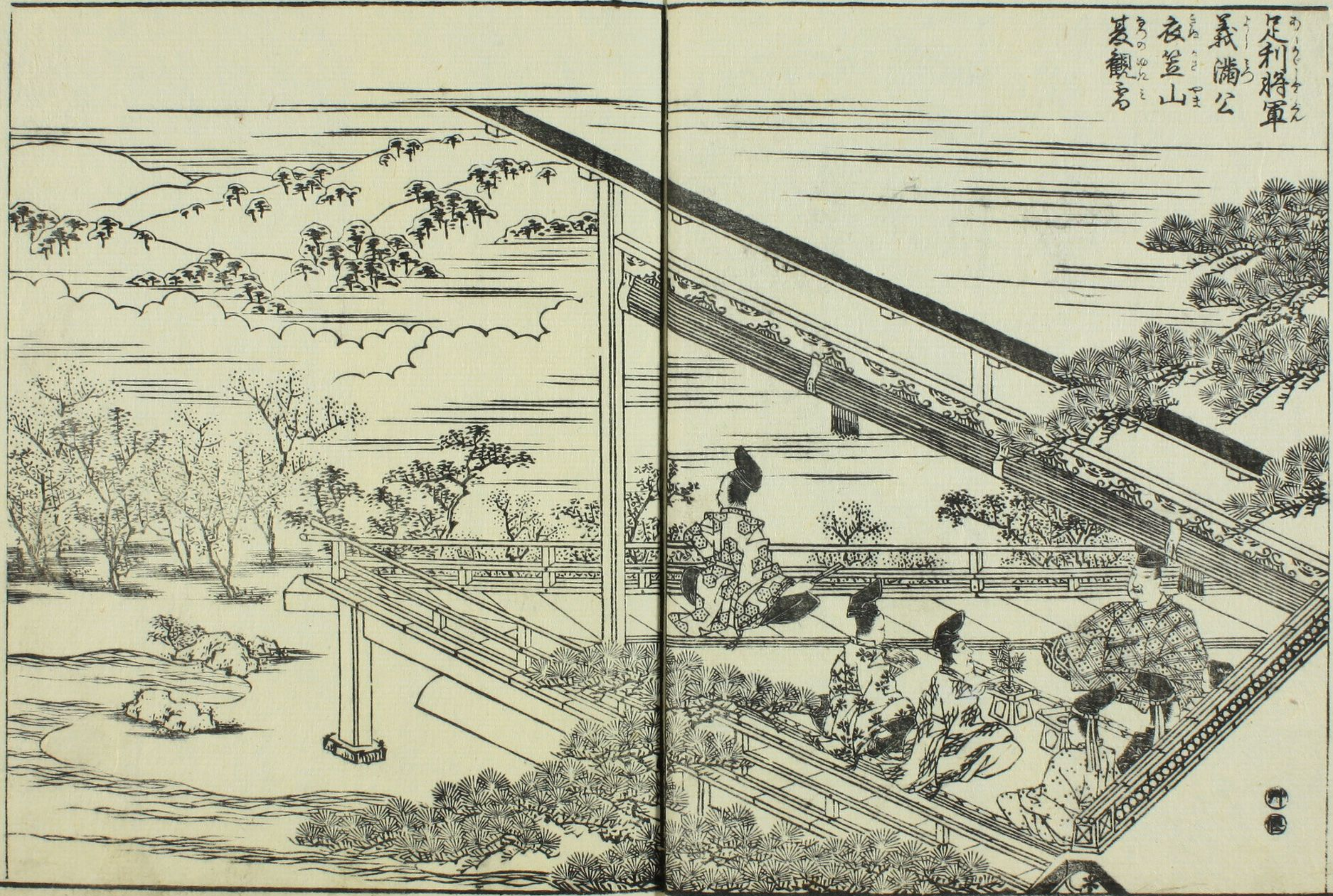


差窓
 園汗
 惟之
 更

院持等

申和

足利將軍
義滿公
衣笠山
夏觀者



龍安寺
方丈
林泉

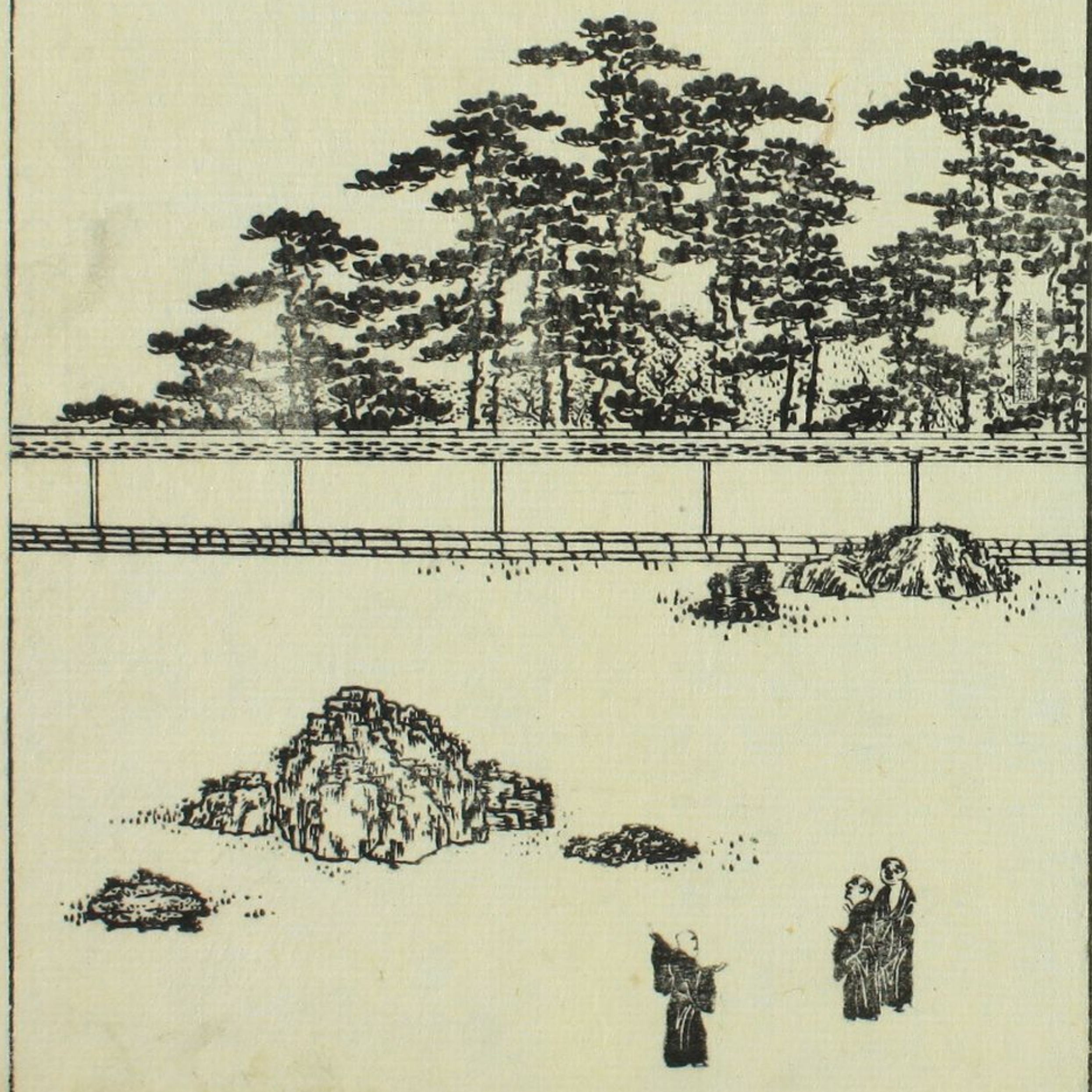
ひり細川勝元
あふ別荘
かき人住せらるる時
書院より毎朝
龍山八幡宮
遙かてんが松
庭中小樹と礎石
苔藓をうらそ
風光を借て
これと相阿弥の
龍の子と名づけ
て
了浴衣名をの
まの外れ古松
まぐらう昔の



印

風景素とさる
其上近年
方丈四縁
物いひと
情な暮れゆ

一庭空曠白砂
平頑石誰鋪形
勢成宛似昔時
渡溪虎分噴兩
子泛波行
皆川意





月夜
夜笠山の
若此
蘇岩

甲和



龍安塔頭
西源院

龍安山

龍安塔頭
大珠院

真田
幸村墓



中和

真田墓
風雷半夜吳王
墓天地清秋伍
相祠成敗克今
共陳跡林泉深
處吊軍師
松寮社



龍安寺の林泉と封境名池あり鏡容池と野に冬日鬱鬱多く敷
 多く洛水の眺を世に名高し池中にも二つの橋あり中の橋は伏虎也
 して又水が石といふあり森の時は石上一水蹴ぬれ西の方乃樋成
 上く水が流るる二笑橋といふ東方あり遠く八景あり是みか
 方丈のりの遠系といく風色とい 東山仲園 伏見城址
東山仲園 伏見城址 所謂方丈のを相阿弥の作あり洛水名をの才一と成
 庭院紅葉 庭中小樹本一株もかく海面の軒相あり中にも赤巖十種ありく
 崎嶇且准一眞の風流ありく他も比較か一も世に虎の子波といふ
 押い地文明年中細川右系が主勝之の別荘にけ人書院を坐ありて遠景
 八幡神廟と每事ありて中にも樹本と柱をけり人初といひ地
 後徳大寺たる官實能公の別業之同く公有の代細川勝之を譲れり
 書院集云
 文治のに後徳大寺のた大長がたりく時徳大寺の亭も作れり
 中にも入られく中門た府へ案内されたりをいふなり其時

二条のた府入道右大臣中相國入道別業ありくありくありく
 扈從よりいより亭も興と用意ありくはては侍六人あり
 ありく左府の車れを中へむくありせられりありありありあり
 申されたりありありありありありありありありありありあり
 其次日北院の所室威法は法下を寺中たありありありありあり
 ありありありありありありありありありありありありありあり
 ありありありありありありありありありありありありありあり
 登りく洛水ありありありありありありありありありありあり
 塔頭西源院と今假方丈 近平方丈 融 釋迦迦茶阿難の二尊と安
權杖あり 一開山日峰和尚の像と安に襖の画の中向金極彩色の他人畫東向
 竹林虎西向琴基書画杉戸 表象 裏 龜俱小持世永徳の号といひ院の
 林泉又風流ありく上段の地も茶室あり額藏六と書け正法山
 柱南の号と書寺の後山緒笠山めぐりく春日の壯觀あり



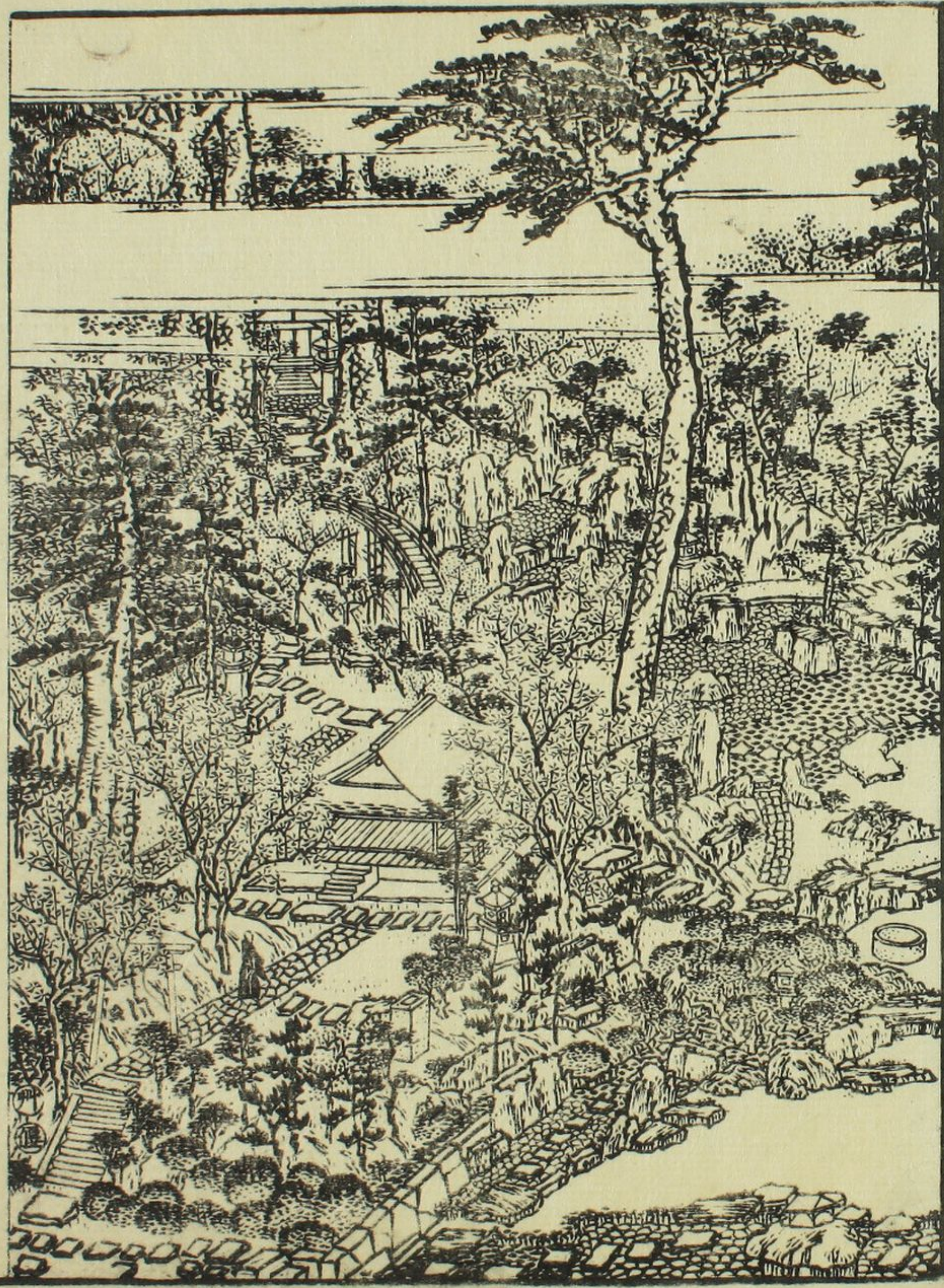
妙心塔頭
大通院

海院の林名ハ
秀樹奇石あり
一々山塔中
第一の名を
なり一代此
任徳和南木高
四方海峯火
おくいをと
徑り中



湘公豈忘故
丘情遊戯徑
幸一小瀛樹
石千般後甲
浦山川
萬里輪
京城白沙
無水分洲色
孤岬多松弄
海聲解道
飛峯不胡
說園中幽趣
擅佳名
三浦其巖



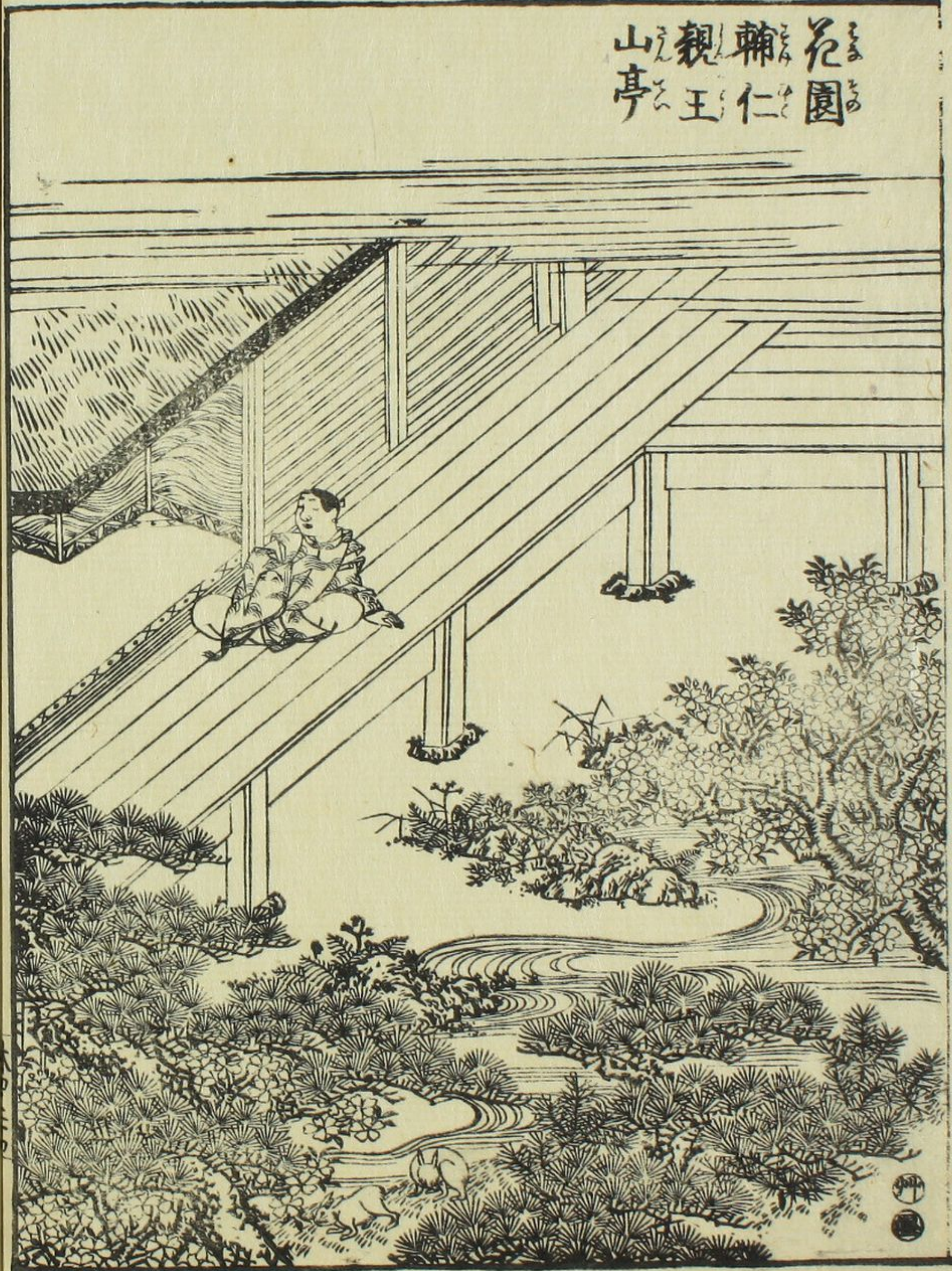


大通院
其二

昔深石迹掩
喬柯返景照
林嵐翠多野
鳥時傳虛谷
響山庭疑是
坐垂蘿
百之肇



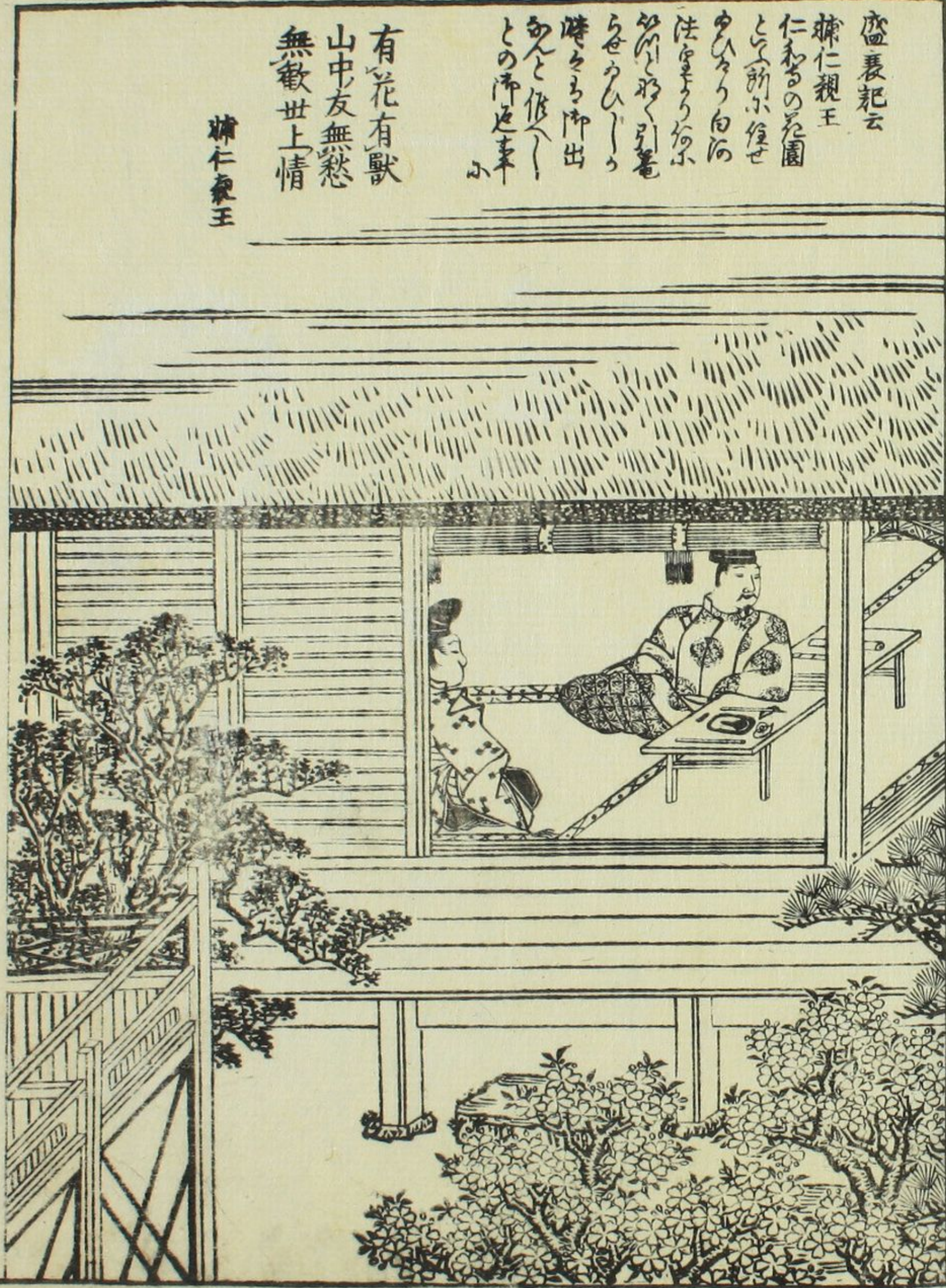
花園
輔仁
親王
山亭



盛衰記云
輔仁親王
仁親王の花園
と云所不徒せ
ゆひたり白河
法皇より何ん
が所なり引巻
らるるひしう
時々より御出
向くと依へし
との御返事
小

有花有馱
山中友無愁
無歡世上情

輔仁親王



正法山妙心寺

花園法皇の離宮の皇子後伏見院の皇太子之位十一年

聖壽 其初 後之條院の皇孫花園大后有仁の別荘之其後裔相繼

く傳領せり然る花園法皇地系公愛のひく離宮と云性禪法

版は初小南樓一移くあみ信州高梨高家の孫み恵玄とい僧あり

相州鎌倉建長寺廣教和尚み渴くと雜髪一洛北龍寶史燈園師

小法嗣を以時 法皇離宮と捨く恵玄小附屬一詔くと南山園師と稱

一當山の南山とい 法皇伽藍の東一院と創くとあみ孫坐一

あれみ王鳳院とい ありより先皇居候 岡山園師延文五年十二月十二日

寂次 年八十四 史二世授翁和尚海突くと大衆み若くと文室み昇入本山

良の隅み塔公建くと微笑菴と稱く其後 勅くと本有圓成佛心

覺照國師と蓋と

山門 慶長に年二月鐵山和尚住山の時成龍に 烏藤拍手叫令辰五百僧房萬物新 東席歌花西席月山門起舞洛陽春 鐵山

佛殿 龍年和尚住山の時文正年中船和尚創建を別地築の塔公

文之儀 密守菩薩像其外 將軍家神牌と安次又

花園院 後花園院 後土内門院

法堂 初法堂を南山三百田忌の穀刺建後傳云は堂乃

右小舟と傳めくあみ公繫を嚙附み傳く大坂の山口み津に

伊賀廣の講可とけく二條城の馬場と牽下立受より妙心寺

其大楹の上み存く本蓮の教の都み三三帝とい之達深く安

と運送水は時希人これ公圖繪み画さし國之達深く安

ひ堂の柱は花井 紹衛とい人富士山の麓より 燈塔を代か

覆椽畫龍 法堂天井の画龍は 探幽法 守信の筆あり

龍ハ初ノ飛殿司紙み畫てあみ板上月貼次年久くと直子

板ハ上み畫さゆ人と守信に人み臺み揮ひ墨彩成

施ハ眼眩み點む付の日候子風み舞み一と空乃

氣色たゞありて人みかろは初意も思入は謝儀の白紙
 我百枚海樽十樽成務は探幽初意も思入は謝儀の白紙
 千枚二千枚ふも遺るを忽ち思入は謝儀の白紙
 勢心せだ衆傍議議一々三千枚と傍は探幽思入は謝儀の白紙
 と初ノより書券を當山子春檢に一毛の謝受使
 此教か一書龍の規範と中算の天慶觀の
 李懷仁が畫龍も亦英な檀り獲は龍の勢威都
 日本子故
 ものめ

毘盧藏 法堂の東小あり當山の經藏之類ハ 伏見院の家筆
 大坂院を巨庵といふ者黄金一千兩と

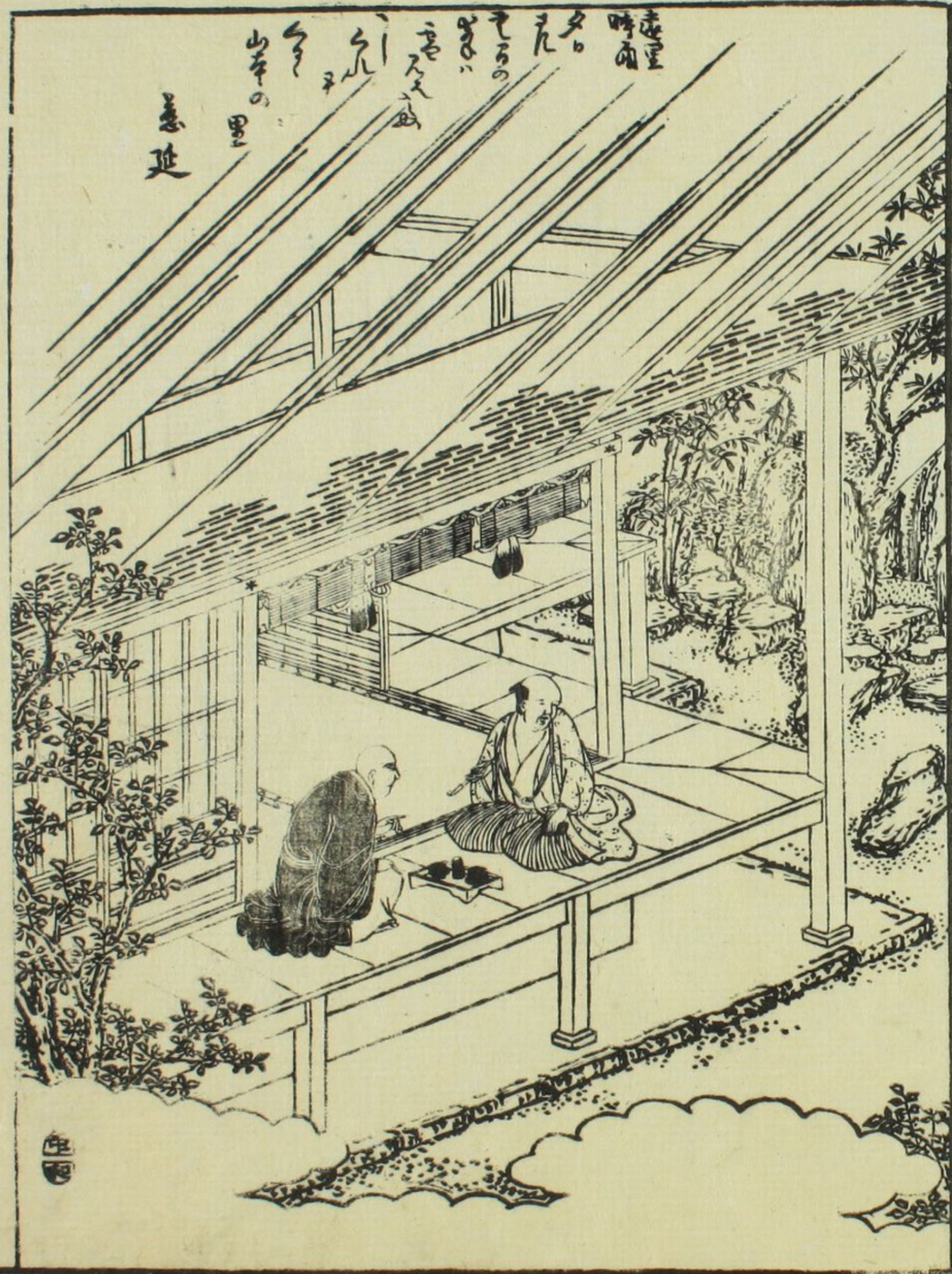
四派松 伴辰の若みありいみへち柏樹と極り今四松あり
 あり故也

雪江松 伴辰の若みあり老樹の丈松屈蟠のふ枝蒼々として
 衡梅院の内あり伽藍東西に

鐘樓 經藏の側あり
 鐘銘云

凡鐘者欲令聲大故必作蒲宇造鯨魚以
 擊之則大鳴矣今茲清和天皇十代山
 名氏義範公之后裔十六代豐國公法名
 禪高其仲子豐義公其阿娘天祥院殿茲
 雲妙大厥慈母者木曾氏也妙大欲以有
 爲財修無爲果鑄巨鐘用寄附吾山其蒲
 牢也吼正法月則打破八萬八千頤傳精
 也聞洛陽城則驚散八萬八千頤傳精
 舍晨音徹梵天聽者得三德觸者解十纏
 嗚呼這箇耳功德至矣盡矣加旃就干森
 上座請銘不得辭厥銘云
 見鐘在簾內空外圓樓臺高聳
 虛谷聲傳鳴依小大德以聖賢
 陸上煙雨晴吼霜天破恩蒙睛
 驚煩惱眠洪音無盡信力彌堅
 萬治貳巳亥年霜月念日

西鐘樓 方丈の西
 正法山 妙心禪寺住持比丘森巖叟銘
 黃鐘調大鐘 其銘云
 戊戌年四月十三日壬寅收糴屋評造春禾連廣國鑄鐘



いふ所の
 法堂の精舎を
 枯母探幽ま
 けつ海福院
 小深をま
 折希住持の
 長光の石の
 探幽園と
 く胸を
 又新なる
 と張一棟の
 庵の様まの
 まれ〜住持探幽
 折希をえとら探幽
 折檻と探幽
 法堂は感ゆ
 寺に賞
 後と一の規範と



妙心塔頭
 海福院
 名画
 後と一圖

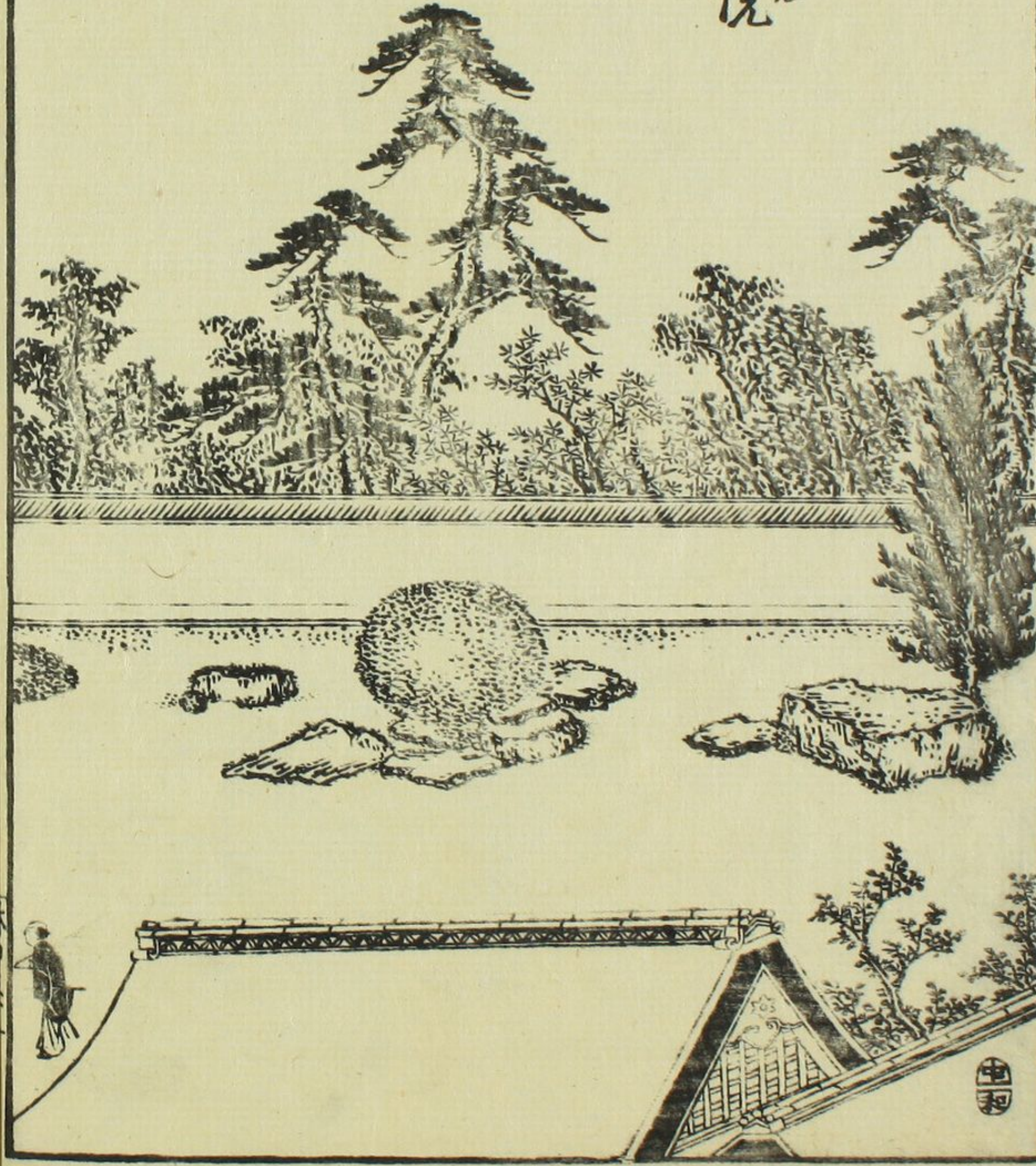


此林泉ハ
 日蓮宗僧
 玉淵の館と
 以て名中此
 表の像と
 十六羅漢と
 表とす



妙心塔頭

雜華院



妙心寺方丈虫拂体

後西院再興繪方
 正親町院居成繪方
 後柏原院紫衣繪方
 後土御門院再興繪方
 後土御門院宗門畫繪方
 崇光院閑山再興繪方
 桃園院園師加辨繪方
 東山院園師加辨繪方
 後西院園師再辨繪方
 後奈良院園師再辨繪方

後西院殿感繪方
 光明院園師加辨繪方
 後水尾院而土
 後水尾院拈華都歌
 後水尾院應無
 花園院南都
 花園院宸翰

○東室間上段

花園院宸翰
 花園院宸翰
 同
 花園院宸翰
 後奈良院宸翰

花園院宸翰
 花園院宸翰
 花園院宸翰
 花園院宸翰

閑山袈裟袋
 同 掛絡
 同 布衣
 同 七條
 同 傳衣
 金襴二十五條

○右東室間

櫻町院宸筆御製表
 時より表の〇のあつた表とせし
 ちよとわのねのまに
 閑山 藤環
 同 葛籠
 祥雲院殿 尚宗 一振
 同 堆朱道具殺殺品
 同 碼碯鉢盂 壹

○祥雲院殿の太商秀吉公の所賜
 兼君の法号あり以下不見ゆ

大應國師像 寧一山贊

虛堂和尚像 自贊

大燈國師影 自贊

龍圖 楊月侗筆

大燈國師與關山國師印證

關山國師像 若江和尚筆

關山國師與授翁和尚印證

虎圖 楊月侗筆

大應國師像 寧一山贊
虛堂和尚像 自贊
大燈國師影 自贊
龍圖 楊月侗筆
大燈國師與關山國師印證
關山國師像 若江和尚筆
關山國師與授翁和尚印證
虎圖 楊月侗筆

東室次所 總張附山水行世探幽等

大慈禪師墨跡
布袋和尚像 李龍臣筆
達磨大師像 門無誤筆
費子和尚像 李龍臣筆
如三幅對
關山國師像 若江和尚筆

鶴圖 徽宗皇帝筆

若賢像 馬麟筆

鶴圖 徽宗皇帝筆

西室、間 總張附 侍野差信等

朝陽 梁楷筆

達磨大師像 顏輝筆

對月 梁楷筆

臨濟像 文惠和尚贊

寒山 拾得 點庵筆

點庵筆

九右十六羅漢 祭山等
六祖画像 日 贊
五祖画像 日 贊
四祖画像 日 贊
三祖画像 日 贊
二祖画像 日 贊
初祖画像 日 贊

觀音像 思恭筆

山水圖 唐伯虎筆

憨山德清 墨蹟

山水圖 唐伯虎筆

釋尊乳供像 吳道子筆

山水 牧溪筆

觀音像 牧溪筆 無準贊

達广像 古法眼筆

觀音像 牧溪筆

飛鳥

山水

仙逸圖 文徵明筆

柳葵 呂紀筆

鐵拐仙人 吳昇小仙筆

拾得

觀音

寒山 然可翁筆

呂紀筆

石鏡子

文徵明筆

呂紀筆

吳昇小仙筆

同

同

然可翁筆

西室次間

張付 兩筆

吳昇筆

牛圖

呂仲

水

小方丈花鳥圖

斤山尚景画

杉戸花鳥

龍 探幽筆

維摩 日筆

虎 日筆

右三幅對

出山釋迦 探幽筆

達广隻履像 益信筆

趙子昂墨跡

人物 東坡筆

日 日筆

畫錦堂記 織造筆

醉翁亭記 東坡筆 石榜八幅

招鶴圖屏風 將所招來者

屏風 永德已下名谷之樂等名画の
外 永德已下名谷之樂等名画の
屏風 十ノ品あり畧之

屏風

雁六面 鶴六面 土佐宗義

屏風

樓六面 紅糸六面 永徳

出之 永徳の筆に成るものあり

屏風

三笑二面 嚴子儀二面 共友松筆

傳云友松ハ之 永徳が解ハ成時

友松解の香画成流 永徳が解ハ成時

怒之友松が横ト是以友松別小奇ク

屏風

四膝六面 三駿六面 俱友松筆

虎竹六面 俱友松筆

妙心塔頭
 幡桃院



林泉奇景
 多し真妙之
 書院の画は
 竹堂水徳寺
 又ハ尚院教
 木尚の跡と



妙心塔頭

大嶺院



高院の林
藤村瀨軒の
松とてい



○後水尾上皇宸翰

悉く乃眉をさし梅を桃の

龜年和向南山園山園作二百年回之時香壽畫
一枝微笑梅耶杏

○豊太閤秀吉公御子棄君淨持物

黄金作産衣體

忍金細工蘇威

一 鑲

○寶劍

棄君御守刀鞘小黄金を以て撰り比類不初の儀成
後藤祐新より伝へられたる

傳云は寶劍一むし一後藤太秀卿所傳の儀あり長七寸八分
如右園田の擲りて秀卿の儀と安く退治具夫根成寶劍
やしく代々秀卿の儀と安く退治具夫根成寶劍
飛彈身氏卿に至つて秀吉公の籠と豊洲會津
羽松の城主の儀と知り九十一万九千石成儀次棄君出
誕の儀と吉瑞の儀と棄君の御守刀一棄君の御守刀
の儀と遺骸と棄君の御守刀一棄君の御守刀
あり解雲の儀と後平山妙心寺の御守刀一棄君の御守刀
及び寶末の儀と後平山妙心寺の御守刀一棄君の御守刀
飛彈身氏卿の儀と後平山妙心寺の御守刀一棄君の御守刀
妻の儀と後平山妙心寺の御守刀一棄君の御守刀
宇は官みく十八万石成儀と會津と豊洲會津
賜へたやせえ

○玉鳳院

法堂の東の方 初めは花園法皇宸居の御殿あり崩御の後

院御釘

宸書の尊影と安並に南面唐門あり

大布金に散して

麟徳殿 名義を撰り初めは花園法皇の御守刀あり

名義ハ漢宣帝の儀と撰り初めは花園法皇の御守刀あり

麒麟殿 中ノ向 龍 永徳筆

法皇宸影向

法皇宸筆 玉鳳院と書け

花園法皇宸影

坐像法服 右小念珠 左小念珠 長七寸八分計

後屏小の二片の圍屏あり縹黒漆地板金濃茶小一段階三級黒漆長押
の上總花菱金濃其四方黒縁其下小座戸四枚地黒漆みく細螺
とりのく畫と仰る四幅對のぬし護ふ云は座戸八唐玄宗皇帝乃慶
殿の具く云傳入戸の内水引あり花巻地綿中央紅の舞鬘
掲け其内陣も宸教と安並に右の向の口外ふた右南原一向此壇
あり内金濃口黒漆の漆子其東小安並に 將軍家御代々神牌西檀

遷意あり妙心寺の南化派起つて海内諸國に流布し是は禪宗の末裔也
其藏主も法嗣立つて將軍家の養子ありて智積院と改む故に祥雲
直言報義の本寺と再興ありて智積院と改む故に祥雲
院と妙心寺小幡一葉君の
遺物も妙心寺空室小幡あり

風水泉 王風院あり

信長塔 信忠塔 武田信玄塔 同勝頼塔 信玄 四男

信勝塔 勝頼 信豊塔 信豊 信豊の子

妙心寺塔頭

天授院 妙心寺の二世授翁宗嗣尚瓜天授院の創基は授翁云

二月十一日 後醍醐天皇 勝頼の對供養の道より 龍顏より遊ば
まのせ余所かぐりて山若倉とて遷すの道より 侍土を人と召具
て戒所とてく多年の儒冠と脱ぐ十戒持律の法解乃身と
あつてせの中平太正記の禪ありそれより東西の國々へ
行きて都に居り俗姓と密に南無佛の法嗣とて授翁
宗嗣と稱し妙心寺の二世成老後法道に因り國石部水部の
能成寺とて山幽棲しを禪の窓とて凡勝頼の心は妙心寺の
三年の秋 聖帝 勝頼とてせの中平太正記の禪ありそれより東西の國々へ
碧海須臾小改る事瓜 嘆とて小康 曆二年三月廿八日妙成寺

於て遷化し 八十九 勅 蓋神光 照禪 師 今もあつて 遠忌
ありて 祥雲 忌日 あり 万里 小幡 家より 使者ありて せまへり 房房 卿
の書ありて 妙成寺の 什寶とて
東海道名所圖會ありて 妙成寺 出せり

抑藤房卿 遷世 妙心寺 後諸國を 徑回し 式拾餘年 公の 南朝

正平十一年 小朝 延文 六十一 泰の 時妙心寺 小入り 園山 園師 法と 嗣と 授翁

和尚と 稱し 世と あり 妙心寺 本朝 遷史 大日本 史羅山 子 贊高 泉

の 禅林 僧寶 傳 大平 記 之 忠 傳 等 小 分明 あり 獨 深 州 元 政 の 隱 逸 傳

み あり 暁 せり 是 按 ず 小 其 頂 南 朝 日 と 追 へ 微 あり 尊 氏 將 軍

権 と 握 り 威 勢 あり 熾 之 顧 み 高 傑 の 隱 逸 あり 人 不 知 之 是 人

事 と 厭 へ 多 瓜 畏 姿 と 憂 へ 諸 國 と 終 り 洛 西 五 木 寺

園 山 の 法 嗣 と 成 へ 双 園 の 東 あり 洛 上 の 妙 村 人 杉 菴 あり 壺 あり 店

天 授 院 と 同 基 あり 妙 心 寺 授 翁 文 字 南 朝 四 代 帝 後 龜 山 院 皇 皇 の

諱 熙 成 王 昂 位 の 年 號 あり 北 朝 永 和 元 年 小 幡 あり 渾 て 年 號 と 寺 號 と 寺 號 あり 倒

多 あり 又 按 ず 授 翁 の 授 翁 の 字 も あり 瓜 用 あり 妙 心 寺 授 翁 あり 又 授 翁 あり 院 號



妙心塔頭
退藏院
け林名
持古法眼
惟くしと
ふ

真桑院
草吟僧都

草の名は
月小ゆつらぬ
光るる

文暢

唯草説法
猪狸法延ふ
祝材盤中
顆と移る境
原競名利
弄ぬ王治如
山底換草魁
畑雄龍



いもから
いもや
この世ふ
生れてら
幸九郎
大五九

ね詩
飛錫高僧好草魁
沽鐘沽坊寶錢
堆一瓶一鉢渾
維草水月入空
生草臺

籬嵩



林泉虎溪を
 縮むといふ
 福富といふ
 名画あり世小
 其名多し



妙心塔頭
 春浦院



○聖澤院 文徳和尚創建東陽和尚と
勸修し、向基次

右四派祖

○大通院 向基の湘南和尚と此人の初土佐國守の真あり、山の水の勝景
多し、一茶書成紀州禪林寺、本山和尚の奉り、奇樹、巖、と、境、

半正法、誌、小、月、之、り、
その、方、丈、の、画、海、小、友、松、書、院、の、徳、後、也、一、の、圖、竹、林、

の、雀、第、ハ、都、々、
海、院、の、極、致、也、

○福徳院 三國志墨画、
松平土佐侯、

○福徳院 三國志墨画、
松平土佐侯、

○福徳院 三國志墨画、
松平土佐侯、

○福徳院 三國志墨画、
松平土佐侯、

○福徳院 三國志墨画、
松平土佐侯、

○福徳院 三國志墨画、
松平土佐侯、

○福徳院 三國志墨画、
松平土佐侯、

○福徳院 三國志墨画、
松平土佐侯、

○福徳院 三國志墨画、
松平土佐侯、

○福徳院 三國志墨画、
松平土佐侯、

○福徳院 三國志墨画、
松平土佐侯、

○福徳院 三國志墨画、
松平土佐侯、

○福徳院 三國志墨画、
松平土佐侯、

○福徳院 三國志墨画、
松平土佐侯、

○福徳院 三國志墨画、
松平土佐侯、

○福徳院 三國志墨画、
松平土佐侯、

○福徳院 三國志墨画、
松平土佐侯、

○福徳院 三國志墨画、
松平土佐侯、

○福徳院 三國志墨画、
松平土佐侯、

○福徳院 三國志墨画、
松平土佐侯、

○聖澤院

右四派祖

○大通院

○福徳院

○福徳院

○福徳院

○福徳院

○福徳院

○福徳院

○福徳院

○福徳院

○福徳院

○福徳院

○福徳院

○福徳院

○福徳院

○福徳院

○福徳院

○福徳院

○福徳院

○福徳院

○福徳院

○福徳院

○福徳院

○福徳院

文徳和尚創建東陽和尚と
勸修し、向基次

右四派祖

向基の湘南和尚と此人の初土佐國守の真あり、山の水の勝景
多し、一茶書成紀州禪林寺、本山和尚の奉り、奇樹、巖、と、境、

半正法、誌、小、月、之、り、
その、方、丈、の、画、海、小、友、松、書、院、の、徳、後、也、一、の、圖、竹、林、

の、雀、第、ハ、都、々、
海、院、の、極、致、也、

三國志墨画、
松平土佐侯、

三國志墨画、
松平土佐侯、

三國志墨画、
松平土佐侯、

三國志墨画、
松平土佐侯、

三國志墨画、
松平土佐侯、

三國志墨画、
松平土佐侯、

三國志墨画、
松平土佐侯、

三國志墨画、
松平土佐侯、

三國志墨画、
松平土佐侯、

三國志墨画、
松平土佐侯、

三國志墨画、
松平土佐侯、

三國志墨画、
松平土佐侯、

三國志墨画、
松平土佐侯、

三國志墨画、
松平土佐侯、

三國志墨画、
松平土佐侯、

三國志墨画、
松平土佐侯、

三國志墨画、
松平土佐侯、

三國志墨画、
松平土佐侯、

三國志墨画、
松平土佐侯、

三國志墨画、
松平土佐侯、

又客殿の画、山水、唐子遊、百牛、廿四考
あれ、み、か、竹、興、意、の、茶、あり

○桂雲院 林泉の境、
檀、然、石、河、藏、人

○太嶺院 林泉系所庸軒の他
檀、然、八、文、字、を

○麟祥院 妙心寺門前の東本辻村あり寛永十一年建立
檀、然、梅、葉、丹、後、也

○護天神祠 禪祥院鎮守あり、
禪、祥、院、鎮、守、あり、

○春浦院 日新の南本街の西側あり
檀、那、一、柳、土、佐、侯

○春浦院 日新の南本街の西側あり
檀、那、一、柳、土、佐、侯

○春浦院 日新の南本街の西側あり
檀、那、一、柳、土、佐、侯

○春浦院 日新の南本街の西側あり
檀、那、一、柳、土、佐、侯

○春浦院 日新の南本街の西側あり
檀、那、一、柳、土、佐、侯

○春浦院 日新の南本街の西側あり
檀、那、一、柳、土、佐、侯

○春浦院 日新の南本街の西側あり
檀、那、一、柳、土、佐、侯

○春浦院 日新の南本街の西側あり
檀、那、一、柳、土、佐、侯

○春浦院 日新の南本街の西側あり
檀、那、一、柳、土、佐、侯

と云まはつてあふとめれをやくひらうちひてゆたなれ
ひやうはひもてゆさうきた非州も人かひとく定てらだつて
した時表ふらも曉もくひと祈つたれが屋もけこのうていある
大事あねも人の事さういれ目覚めれいれおまのびんごとと
しそきふたわりのさかよのほのさぬぬめれと人すかやれ書
と後川ゆらされたり徳のつれとさるまや

大應國師塔

妙心寺の南五河許安井村竹林の仲ありは地原國師
龍翔寺の文字れ古をと塔出次今る宗野大徳寺塔頭の中
み寺塔と極しく再興み及人則大徳寺の南山大燈國師の
併入宋しく虚堂和尚法嗣と

傳云大應國師諱紹明字南浦駁州安部郡の巨族藤氏の子
幼しく駁州建徳寺淨辨小事法の出世成學比年十五才
しく羅髮一具足戒を受録倉建長寺蘭溪隆和尚茶
禪一正元の頃宋國入く偏く諸公と訪入時且虚堂和尚

林四十一

津慈み技多道凡高峻學者敢く其門み登侍事わし南浦
泰謁しく機鋒相契入虚堂大予歡んく賓客み典しむ
日夕咨扣小一日虚堂の頂相と摸しく顔み傳入虚堂
書しく曰

紹既明白語不失宗手頭數算
金一團栗蓬大唐國裏無一人會

文永八年太宰府崇福寺止錫とる事二十二年泰徒日々熾之
嘉元の間詔み奉く京師小入 太上皇 法字 君く宮掖小對し
向答 敷通小彌入 勅と下しく萬壽禪寺と主としくひ延慶元年
臘月廿九日忽微疾わつと頌と書しく曰

詞風罵雨佛祖不知
一機瞥轉閃電猶遲

書し畢くか跋しく遊次 上皇哀慕しく已決勅しく圓通
大應國師と蓋ある寺と右系み管く額しく龍翔と號し塔と後山
小築く普光としく



一休和尚年譜云

寛正二年春遊嵯峨一路經西京入并龍翔之塔荒涼僧少堂宇頽歇昭堂特龍山所營而獨無恙庫院最廢
 狂雲集感龍翔廢寺
 常住物誰用己身山門境致剪松筠
 殿堂只與花零落廢地秋風二月春

後宇多院塔

賀陽門院塔

大應國師塔の在りて
 安井村龍翔寺古跡竹杖の押あり五輪石塔婆は建つ
 後宇多院塔の在りて賀陽門院の所新く龍臺の及大應
 この女之龍翔寺境内に初賀陽門院の所新く龍臺の及大應
 國師の徒安地地安く國師の塔跡と伝

鹿苑寺

手聖のふかき世に金閣寺との原西園寺の廢跡に足利三代義隆の別業と伝
 遺念のふかき世に金閣寺との原西園寺の廢跡に足利三代義隆の別業と伝
 林泉寺三重金閣あり落盤小嵐と堂上を究竟頂中代潮音洞下
 と法水院あり金閣のあり池と鏡湖あり五山海石あり御茶水と銀河泉と
 龍門瀑あり鯉魚石あり安民澤あり龍石あり明王院あり鶴の不動と安次茶小波と
 石之獨結水あり五月の社と鎮守あり實は園茶漢宣帝の堂あり麒麟閣も比せんや



足利三代將軍義滿公延文二年八月廿一日京都誕生と重名と春王との應安
 元年十二月征夷大將軍の宣下あり永徳四年室町に遷り後醍醐天皇御殿と号次
 館内五名を教子と樹の樹の人の御所といふ同十二月從二位叙次同二年小
 從一位叙次御直衣初あり永徳二年正月左大臣任次同二年將軍家犯州
 和子浦小遊び又富士山を封く應永元年將軍を長子義持子護持と義滿公
 大政を官小任兵杖宣下あり世傳義滿相國は任ずんと許し朝廷これに許さず故に
持家と一富士と法をくく朝廷を廢せんといふ應永元年六月鹿苑院に重高閣
 と營む同六年相國寺に七重之塔と建る金閣(退居より小山殿と稱す)明皇を
 書成勝と美金一千兩と書る書は兼深菅原秀長州次應永十五年八月六日
 兼征夷大將軍大政大臣從一位准三宮義滿公小山亭とて薨没報載 三十一
 鹿苑院殿と号次勅使朱布太上天皇の御と賜らる猶子義持とて次辭次
 之明帝より祭文を祀り恭獻王と賞次

都林泉名勝圖會卷之四

林四至齋

袖大和路便覽

一名芳山花葉 折本一冊

於他邦小橋ぐ地理にくく一とざれん感ひ此の京の
 大和巡りの路徑船陸兩岸の地名を野崎親香乃大坂堀あり
 河内名紀州和野の浦見物言路あり和野の茶大不長あり茶
 出ののり馬駒ト大和國中の名山所葉内堂とて橋がゆく詳不
 名一名ゆきを牙路山一毎の車とて大橋花を賞す
 名家の詩歌名くは詠歌の子乃繡衣を載り堂上乃鴻儒
 文人歌人の詠り詠歌をそとくあらへんおのの詠り
 堂の御座り御地を産物に載るを浅くは
 交小橋びわん種歌子乃便利此とて珍言はるる河内
 河内屋土吾兵衛梓行

浪基書肆

公齋橋通北久太町上六西側
 河内屋土吾兵衛梓行

